

令和6年度 学校教育目標「挑戦 つながる笑顔 丹那の子」

重点目標「自ら学び、共に高め合う子」「自分の思いや考えを言葉で表現できる子」



丹那小だより

函南町立丹那小学校
令和6年8・9月発行

「最後の一打」に向けて

校長 土屋 清隆

8月28日より学校が再開しました。それぞれの子供たちが充実した夏休みを過ごしたことを思います。例年以上に猛暑日が続き、南海トラフ地震注意臨時情報、台風7号の接近と心配な日々が続きましたが、子供たちの元気な笑顔が学校に戻ってきて、とても幸せに思います。

さて、今年はパリオリンピックで盛り上がりました。多くの競技で各国・地域の選手が躍動する姿が伝えられました。オリンピック種目にもあるバスケットボール、近年日本でも盛り上がりを見せていますが、アメリカではNBAが世界的な人気を博しています。そんなNBAにテキサス州サンアントニオに本拠を置く「サンアントニオ・スパーズ」という名門チームがあります。そのチームのロッカールームには次のような言葉が、書かれているそうです。

何をやっても無駄に感じ、救いがないと感じたときには、
私は石切工が岩石を叩くのを見に行く。
おそらく100回叩いても亀裂さえできないだろう。
しかしそれでも101回目で真っ二つに割れることもある。
私は知っている。その最後の一打により岩石は割れたのではなく、
それ以前に叩いたすべてによることを。



「無意味に思えることでも、全ては成功する時の一打につながっていて、継続し続けることに意味がある」ということを意味しているそうです。実際に岩を割る場面を動画で見ると、だんだん割れていくのではなく、突然パカーンと割れるように見えます。（当然少しずつの変化はあるのですが）どうしても、最後の一打が目立ちクローズアップされがちですが、いつかの成果を信じて、そこに至るまでの過程を大切にできる力を育てていきたいと思います。

ご協力ありがとうございました

夏季休業期間中のプール開放にともない、保護者の皆様には暑い中での安全確保にご協力いただき、ありがとうございました。3日間の開放でしたが、多くの子供たちがプールを楽しむことができました。また、花の水やり・鯉の餌やりにご協力いただいた保護者・CS委員の皆様ありがとうございました。

8月3日(土)「猫おどり」に有志児童・卒業生が参加しました。【静岡新聞(8/4)より】

